



半田中央病院情報誌

半田中央病院 だより



新年のあいさつ

半田中央病院 院長 半田隆

新年明けましておめでとうございます。2000年を迎えるとき、どんな21世紀になるのだろうかと思いを馳せてから、早22年がたっていました。職員の皆様も、生まれたばかりの方もいたでしょうが、それぞれの年代で、いろんな未来を創造していたのではないのでしょうか。世界の人口は70億人に達し、温暖化は進み、昨今はコロナウイルスに翻弄され、これほど混とんとした世になろうとは思いませんでした。高齢者社会は進み、年金への不安、いつまで働かなければならないのか、明るい老後などとは、言いがたい世の中です。IT化、通信や流通の進歩、確かに便利な世の中にはなりましたが、便利さと幸福感は必ずしも比例せず、便利さとは裏腹に家族関係は希薄になってきた気がします。

自分も年を重ねましたが、多くの入院してこられる患者・家族様たちと接し、その数だけ人生があり、今までの家族背景や暮らしぶりなどを知り、さまざまな人生を過ごされて来られたのだなと思い知ります。思いがけず病気や骨折で不自由になり、入院生活を送らざるをえなくなった患者さんの辛さは、大変なものと思います。そんな患者さんたちが少しずつ良くなり、この病院へ来てよかったと言われるときに、とても幸せな気分になり、職員皆さんの努力が報われたのだなと実感します。また、長い間医療関係の仕事に携わってきましたが、退院後の生活も考えながら、患者さんをサポートしてゆく病院での仕事は、大変ですがやりがいのある仕事だと改めて思わずにはられません。人に尽くして、笑顔にさせることもでき、感謝されることもあるかけがえのない医療という仕事です。新年を迎えて、職員の皆さんが、健康にそれぞれの持ち場で、その道のプロフェッショナルとして、進歩発展し活躍されてゆくことを期待しております。そして、当院へ来てよかったと、一人でも多くの方に言っていただける病院にしていこうではありませんか。本年もよろしくお願いいたします。

訪問診療について

半田中央病院 総合診療科 医師 浅野智也

訪問診療は、癌の末期、間質性肺炎や心不全など徐々に体調が変化していく疾患、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの神経の疾患や、高齢や重い障がいでは動けなくなったなどの理由で受診が困難な患者さまや、重症心身障がいなどで頻回の通院が困難なお子さまの住んでおられるご自宅や施設に訪問し、医療を行う診療形態です。定期的に訪問させていただいて、診察や必要な処置、お薬の処方などを行います。訪問の頻度は患者さまの状態に応じて変わります。



急に体調が変化されたときは、24時間365日対応させて頂いておりますので、患者さま、ご家族さまからご連絡をいただき、訪問看護師さまと連携をとって緊急で訪問する「往診」をすることもあります。最期までご自宅で過ごされたい患者さまでは、なるべく苦痛のない生活ができるようサポートさせて頂きながら、ご自宅でのお看取りまで行っています。多くの患者さまが通院が困難で、入院のように生活の全てをゆだねることもできません。そのため通常の外来や入院での診療とは違って、より生活の基盤に密着した診療になります。また、ご自宅や施設での診療は病院での診療と違い、できることの制限がありますので、日々、工夫しながら行っています。体調の変化でご家族さまの介護の負担が増えてしまったときなど自宅での生活を立て直すための様々な調整を必要としたり、制約のあるなかでの診療になります。

りますので、担当ケアマネジャーさまはもちろん、近隣の医療機関さま、訪問看護師さま、訪問リハビリの療法士さま、行政の方々など複数の機関・職種の皆さまと連携をとって、日々診療にあたらせて頂いています。



訪問診療の導入までの経緯が急で最初は不安だったが、みな若い先生が親切にしてくれて安心してやっていけます。これからも困っている方に訪問診療についての情報が届くといいですね。



同行看護師とは

在宅医療センター同行看護師より

当センターは複数の医師で訪問診療を行っています。その中で訪問診療を利用されている患者様が少しでも安心して診察が受けられるよう医師への情報共有(ご本人様やご家族様の特徴や今の問題点などを伝えていくこと)が同行看護師の役割です。同行看護師の中には、病棟勤務・訪問看護師など色々と経験をした看護師がいます。その経験を活かしながら患者様・ご家族様が在宅生活を安心して送って頂く為の看護・介護のアドバイスやお手伝いをさせて頂いています。

在宅で患者様やそのご家族様の生活を支えていくには、医師だけではなくケアマネージャー・訪問看護師・基幹病院等との連携は不可欠でありその連携がスムーズに行えるためには同行看護師が存在することで一層スムーズな連携が取れるよう努めていきます。



あいうべ体操と唾液の話

歯科衛生士 宮地佳子

この時期になるとテレビなどであいうべ体操を聞いたことがある方もいますが、福岡市の内科医である今井一彰先生(みらいクリニック)が考案した方法で舌や口元の筋力を鍛え、鼻呼吸するようにする体操です。

口を閉じると舌は上顎のくぼみのところにぴったりとくっつきませんが、舌の筋力が衰えると舌の位置が下がり、自然にぽかんと口が開きやすくなって、口呼吸をしてしまいます。

口呼吸は免疫力が下がったり、口が乾き口臭や虫歯、歯周病のリスクが高くなったりいびきの原因になります。

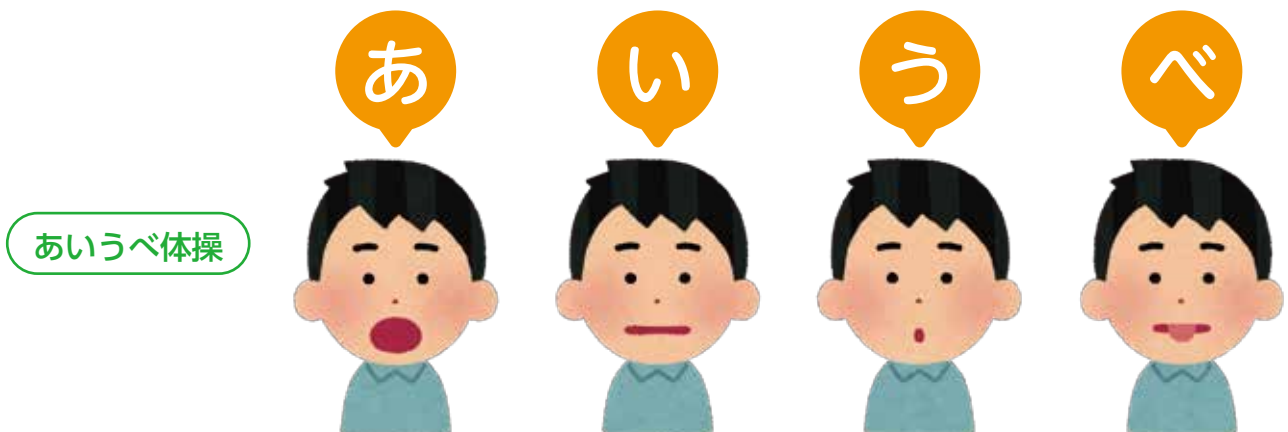
鼻呼吸の利点は鼻毛がフィルターになって空気を綺麗にし、副鼻腔で温められ湿った空気を肺に取り入れ感染リスクが減ります。

舌を動かすことで唾液が増え、唾液には抗菌作用があり、口の中に入ってくるウイルスを殺菌したり、消化を助け、胃や粘膜を保護し、全身の健康に役立っています。

唾液にはカルシウムとリンが多く含まれ、食事などで歯が溶けてしまった部分を再石灰化し、修復してくれます。

そこに微量のフッ素があると酸に溶けにくい歯質になる為、出来れば高濃度フッ素配合の歯磨粉(1450ppm)を使ってみるのもいいと思います。

あいうべ体操をして、よく噛み、よく話し、よく笑って、しっかり唾液を出して色々な病気にかからないよう予防しましょう。



それぞれ1秒キープし、10回を1セットとして、1日3セット行くと効果的です。

医療法人 メディライフ 半田中央病院

〒475-0017 愛知県半田市有脇町13-101

TEL. (0569) 20-2210 FAX. (0569) 20-2212

診療時間：月～土(祝日を除く)9:00～12:00(受付は8:30から)

診療科目：内科・小児科・リハビリテーション科・脳神経外科・整形外科

回復期連携室

TEL. (0569) 20-2208 FAX. (0569) 20-2209

【併設事業所】

半田中央病院 在宅医療センター

TEL. (0569) 84-2230 FAX. (0569) 84-2237

デイリハビリセンター

TEL. (0569) 20-2217 FAX. (0569) 20-2237



<http://www.medi-life.jp>

